

会長就任にあたって



牧 正志 京都大学 工学研究科材料工学専攻 教授

この度、第87回通常総会において本会会長に選任されました。大変光栄に存じますとともに、本会の歴史と伝統を考えますと、その責任の重大さを痛感しております。大役をお引き受けいたしましたからには、大橋、石井両副会長をはじめとし、理事各位および会員の皆様のお力をお借りし、本会発展のため、ひいては鉄鋼産業界の活性化のために誠心誠意努力していく所存です。宜しくご鞭撻のほどお願い申し上げます。

本会では、1995年佐野元会長の時に、「学会部門」と「生産技術部門」の2本柱で運営する組織の再編が行われました。この新体制の定着のために、多くの新しい試みが実行に移され今日に至っております。この間の歴代会長をはじめとする多くの会員各位の献身的なご努力とご協力に対し、心から敬意を表します。大学、企業ともに大変厳しい環境下にある昨今、学協会の運営も難しい時期にありますが、今までの路線を継承しつつ、本会のもつ良いところを大いに伸ばして行きたいと思います。

本会の最大の特長は、学と産の強い連携にあります。これは、他の金属系学協会には見られない強みであり、本会の活性化の鍵はこの連携の強化にあると考えます。王寺前会長のもとで、両部門の連携強化が推進されましたが、両者にとって役に立つ基盤的研究課題の発信や情報交換が可能になるような仕組みを、さらに検討する必要があるようです。

学会の使命は、学術・技術の情報発信と交換、人材と技術の育成、および啓蒙と人的交流の場の提供にあります。これに応えるべく、本会では非常に広範で多様な活動が展開されています。それぞれについて思うところはありますが、ここでは、次の二点の強化を強調したいと思います。

第一は、人材の育成です。本会では従来より、育成（助成）・啓蒙に関し活発な活動を展開して参りました。これは、鉄鋼協会が他の学協会に対して誇れるもののひとつです。しかし近年、企業、大学いずれにおいても、研究者の減少、短期的成果の要求、本務以外の時間的負担の増加などにより、鉄鋼に関わる研究者の個々のポテンシャルの低下が少々懸念されます。次世代を支える若い鉄鋼研究者・技術者が将来真の力を発揮するには、今こそしっかり腰を落着け、基礎に立ちかえって物事を考える力を養うことが重要であると思います。人材育成には時間を要しますが、本会のあらゆる活動の中に、人材育成の視点を今まで以上に取り入れる必要があります。高い志と情熱を持つ優れた若い研究者・技術者の育成こそが、今の本会の重要な使命であると考えます。

第二は、国際化です。グローバル化の進む今日、本会も国内の研究者・技術者だけの交流で存続できるはずがありません。国際的に通用する質の高い活動の展開が不可欠でしょう。例えば、英文論文誌のISI Internationalは近年、海外からの論文が半数をこえる国際誌として定着して参りました。しかし、春秋の講演大会での講演発表数から考えて、まだまだ我が国からの投稿は少ないようです。本誌を真に権威のある国際誌として定着させる必要があります。そのために、会員各位が一緒になってこの雑誌を育てるという認識をぜひ持っていただき、積極的な投稿をお願いする次第です。また、王寺前会長により、アジアの鉄鋼関係学協会との提携が進められました。今後もこれらをさらに強化し、世界から尊敬される鉄鋼分野のリーダー学会となるよう努力していきたいと思ひます。

明るい未来を信じ元気を出して、参加して楽しい学会、参加して元気が出る学会、人と人との温かい交流ができる学会を目指したいと思います。本会の発展のために会員の皆様のご支援、御協力を重ねてお願い申し上げます。